令和 4 年度後期アーバンデザインスクール第 4 回実績報告書

1. 開催日時

令和 5 年 2 月 14 日（火）18 時 30 分～20 時 00 分

参加人数: 11 名（UDCBK での参加: 6 名、オンライン: 5 名）

※オンラインでのアーカイブ配信の視聴回数は、51 回

2. テーマおよび話題提供者

「地域の魅力をつくるパブリックスペースの使いこなし」

- 近年、道路空間や河川空間などの公共空間は、各地で人が楽しめる場へと生まれ変わっている。南草津でも、素敵な公共空間を創造するきっかけとなるように、多様な事例と実践的な手法を学ぶことを共通テーマとした「南草津のパブリックスペースの利活用に向けて」の第 4 回である。
- 第 4 回の本スクールは、有限会社ハートビートプランの岸本 しおり 氏を講師に迎え、立命館大学 理工学部 教授で UDCBK センター長の岡井 有佳 氏のコーディネートのもと、岡崎市・乙川の河川空間の活用、豊田市・まちなか広場の活用、大阪・なんば駅前空間再編事業などの事例を踏まえて、まちなかのパブリックスペースの市民の使いこなしについてお話をいただいた。

3. 話題の概要

(1) 岸本氏による講演

ア. 愛知県豊田市 あそべるとよたプロジェクト: 公共空間を開く初動プロジェクト

- 自動車産業が中心となっている都市だが「車の街 豊田から人のための豊田へ」をコンセプトに車だけに依存しないまちづくりが進められていた。
- 「あそべるとよたプロジェクト」を掲げ、既存の広場の使い方について官民の協議会をつくり、市民発案のアクティビティが実施できる社会実験を実施した。
- 結果として、広場の使い方が多様化する効果があったことが判明した。また、広場の特性に合ったかたちで活用方針を決定した。その後、広場営業に力を入れるなどして、質の高い企画によって人の滞留が促されるような継続的な仕組みをつくっている。

イ. 愛知県岡崎市 乙川河川空間の活用: ビジョン共有・世話人の役割

- 日常の風景から遠ざかっていた乙川の使い方について、まずは何がしたいかという「妄想」から始め、2016 年に社会実験「おとがワ! ンダーランド」を実施した。
- 活動の中で、「乙川の世話人」と呼ばれるような中心人物が参画し、乙川でできることを自らやってみて、ブランド価値の向上を目指す企画を進めていった。
- 地域、民間、行政で乙川エリアの将来像について「おとがわエリアビジョン」を策定し、「自然と都市が交わる暮らし」をコンセプトにした。結果、定期的な取組が増加し、日常的な居場所に変わり、ビジョンの更新も市民自らが行うようになっている。

ウ. 神戸市伊川谷駅 モヨリノ: 活用ニーズの探り方

- 神戸市内の中心市街地の高層マンションの建築規制により、郊外部が居住エリアとしてより魅力的になることが必要との課題認識から、最寄り駅をリノベーションし日常の暮らしを豊かにするプロジェクトとして、開始した。
- 伊川谷駅ニーズを探るために、滞留行動調査で現在の使い方の把握、近隣事業者へのヒアリングにより活用ニーズの把握を行った。
- 駅前で利用者の少ない詰所を居心地のよい滞留空間とすべく、まずは清掃などできるところから始めた。さらに、近隣農家による野菜販売や地域による近隣事業者による市民花壇の管理など日常的な活動・ゆるやかな管理を積み重ねていった。
- 単発的なイベントを狙わず、定期的に活動を行っていたことで、人々の居場所になるような空間が生まれている。

エ. 大阪市なんば駅前 なんばひろば改造計画: 市民が獲得するパブリックスペース

- 歩行者空間が不足し、魅力に乏しい駅前空間であるなんば駅前エリアを変えるべく、民間発意からプロジェクトが始まった。
- 地元・企業・行政が一体となったチームで、きめこまやかな周辺関係者との合意形成

を図り、日常の憩い空間の創出を目指している。

- 広場への集客ではなく、エリアの回遊性向上のための施策を進めている。

オ. パブリックスペースの使いこなしのまとめ

- 「自由」と「責任」の両立: 何をやってもよいわけではない。
- 官民の対等なパートナーシップ: 同じ方向を見据え、できることを実施する。
- この場所の「目指す姿」を明確に: 「ここだからこそ」できることをする。
- 実現のための営業活動: 自らが動き、理想の姿を実現させる。

4. 質疑応答等

(1) 岡井氏: 地域によってニーズは異なり、地域の人々が使えるように運用していくことが大切になると感じるが、アイデアを出す人やそこに乗ってくれる人を集めるにはどのような工夫をしたのか。例えば、豊田市の場合はどうだったのか。

岸本氏: まずは、ヒアリングをたくさん行い、ふわっとしたものでもよいのでニーズを探った。そして、地域の事情に詳しい方を介して、数珠繋ぎでネットワークを広げていった。また、まちづくり会社などの既に地域のネットワークを持っている方を通して、ネットワーク力のある人を押さえていくことも大切だと思う。

(2) 参加者 1: ゆるやかな管理を行う上で重要なことは何か。

岸本氏: 社会実験から始めて、当事者同士のお互いのできること・できないことを見ていくことが大切なように感じる。その上で、市民がやってみたいことと、行政がすべきこととの線引きなど仕組みづくりをしていく。

(3) 参加者 2: 依頼は行政から来ることが多いのか。

岸本氏: 行政とその他、半々程度との印象がある。また、業務によるが、依頼自体がはっきり定まったものでなく、ざっくりしたところから始めていくこともある。ただ、一緒に連携する市民・事業者は真剣に活動しているので、行政の実現・継続に向けての覚悟が問われる場面もある。

(4) 参加者 3: 草津駅周辺はエリアの回遊性が課題だと感じているが、何かよいアイデアがあれば教えてほしい。

岸本氏: 最初に回遊性を目的とせず、まずは、小さな範囲でまちの魅力やおもしろさを高めていき、回遊の目的をつくっていくことが大切。魅力的な目的同士がつながっていくことで回遊性が上がっていく可能性がある。

(5) UDCBK: 豊田市の広場活用では、アクティビティを実施する主体を集めるためにどの

ようなところに営業に行ったのか。

岸本氏: 市内中心部だけでなく、郊外部も含めて色々なところに行った。まず、そのエリアがどのようになってほしいのかということを考えてから営業に行くことで、おのずと活動につながっていった。

岡井氏: どういった団体が参加したのか。

岸本氏: 音楽教室や郊外の観光協会、スケボー団体など多種多様な人々が集まった。

(6) 岡井氏: 活動を実施していく上で、中心となる人の専門性は問われるか。

岸本氏: 建築やアーバンデザインの専門性は必ずしも問われないと思う。むしろ、市民と管理者の両方の視点を持てるかどうかが大切だと思う。

岡井氏:草津市には草津川跡地公園のような事例もあるが、今回のお話を聞いて、他の都市の使い方の事例から、草津市でも様々なことができそうな可能性を感じた。

5. アンケートまとめ

当日参加者、アーカイブ視聴者を含め、アンケートに回答いただいた方は 9 名だった。

問 1. 参加者属性

(1) 年代

10 代～20 代	30 代～40 代	50 代～60 代	70 代以上
1	5	3	0

(2) お住まい

草津市内に居住	草津市内に通勤・通学	県内他市に居住	滋賀県外に居住
6	1	1	1

(3) 職業

学生	大学関係者	会社員等	その他
1	1	5	2

(4) 開催を知った手段（複数回答の場合あり）

チラシ	ホームページ	SNS	メールニュース	広報誌	知人	その他
2	2	1	2	0	2	0

問 2. 今回、印象に残った点、講師の方へのメッセージなど

- 今まで聞いたことのある事例が多く、その背景や目的を詳しく知れて面白かった。地域

住民主体の維持管理を前提に全体の仕組みを作っているのが重要であると感じました。

- 多様な事例を紹介いただき参考になりました。南草津においてもまずはニーズを把握することが大切では。
- 地域が自ら動いている事例を多く紹介いただき、参考になりました。
- ヒアリングの大切さや営業の大切さを感じました。そのイメージも教えていただき、ためになりました。
- 事例を参考にうまく説明され分かりやすかったです。緩やかな管理という言葉が印象的でした。大きなイベントをするより小さなイベントを頻繁に行うことが非日常から日常へと変える。賑わいが創出される。その通りだと思います。勉強になりました。
- 出来上がった素敵な空間は、すでに知っていましたが、空間整備のプロセスについて、詳しくお聞きすることができた点がとても勉強になりました。
- 今回の岸本様のお話を伺い、私自身が常々考えていました事の実現に対して、指針を与えて頂いたと思いました。特に印象に残ったのは、官民のどちらにも詳しい、中間の立場に立って下さる方が必要な事と、「まちなか使いこなし講座」のお話でした。「パブリックスペースの使いこなし」についての具体的な方法やポイントが、新しい発見として、とても勉強になりました。有難うございました。
- 南草津や UDCBK を盛り上げたいと思う人間には、参考になるポイントや言葉がたくさんありました。パブリックスペースは、イベントよりも日常での使われ方が大事、という点を特に実現したいなあと思いました。

問 3. 今後のテーマや概要等についての要望

- まちづくりの参考にとてもよかったスクールだったと思います。もっと多くのひとに聞いてもらえる PR をして頂きたいと感じました。
- 可能であれば、勤務時間内にあると関係者の受講を促しやすいです。